

〔科目名〕 名著講読演習	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 演習科目				
〔担当者〕 下村 育世		〔授業の方法〕 演習				
〔演習テーマ〕 近代とはいかなる時代か ——明治以降に変化したモノ・コトを歴史に着目しながら考える (1) 天皇と宗教編						
〔演習内容〕 <p>現在の日本では、天皇の代替わりとともに元号が変わることが「伝統」として定着しているかのように思われる。しかし、「大正」や「昭和」と呼ばれる一定の期間を一人の天皇とともに意識する時間感覚は、少なくとも江戸時代までの日本には存在しなかった。神道式の皇室祭祀も、古くからの伝統のように見えるが、ほとんどは明治以降に新たに創造されたものである。皇紀紀元の使用や天皇の誕生日(天長節)を祝う習慣も、明治期以降の比較的新しい「伝統」に過ぎない。これらの事例からは、昔からの慣習のように見えるものも、実は比較的短い歴史しかないものもあるということが窺えよう。そして、そうした過程で失われたものも少なくない。</p> <p>本演習では、近代の天皇が以前と比べてどのように変容し、何を行ったのかを、具体的な天皇に関するテキストを通して学ぶ。天皇の人生をたどることは、日本史の理解につながる。初めての輪読となる学生もいるため、比較的読みやすい書籍を選書する。テキストを丁寧に読むことにより、内容を正確に理解する力を養い、批判的読解の方法を体得する。</p> <p>輪読にあたっては、担当箇所の読書レジュメの作成、発表、受講者による議論、関連資料の検討を行う予定である。輪読書の候補としては、高橋紘『象徴天皇』(岩波新書、1987年)、原武史『大正天皇』(朝日新聞出版、2015年)、島藺進『神聖天皇のゆくえ』(筑摩書房、2019年)などを予定している。演習は学生主体で進めるため、議論への活発な参加を期待する。</p>						
〔科目の到達目標〕 <ul style="list-style-type: none"> ・文章を正確に読み、それを要約できる。 ・読書レジュメを作成できる。 ・他者の意見を理解した上で、自分の意見を述べることができる。 ・批判的に読むということについて理解する。 						
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕						
学部				学科		
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3
〔前提条件〕 歴史や宗教に関心があることが望ましい。						
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 歴史や宗教に関心があることが望ましい。						
〔教科書等〕 履修学生と協議の上、都度輪読書を選定します。各自入手してください。						
〔実務経歴〕						

授業スケジュール

時期	テーマと内容
春学期	輪読
秋学期	輪読